

2013年12月期 第3四半期 決算説明資料

カルナバイオサイエンス株式会社
代表取締役社長
吉野公一郎

JASDAQ

証券コード:4572

会社概要



■会社名: カルナバイオサイエンス株式会社
(英文社名: Carna Biosciences, Inc.)

(2013年9月30日現在)

■代表者名: 代表取締役社長
吉野公一郎

■設立: 2003年4月10日
(日本オルガノンからスピンオフ)

■上場日: 2008年3月25日(JASDAQ NEO)
■上場市場: 東京証券取引所JASDAQグロース
■資本金: 26億0,272万円
■発行済株式数: 79,844株
■株主数: 7,441名(2013年6月末現在)
■役員及び従業員数: 役職員62名

■所在地: 神戸市中央区港島南町1-5-5 BMA 3F (ポートアイランドの神戸医療産業都市内)
(最寄り駅: ポートライナー 医療センター駅 徒歩1分)

■監査法人: 有限責任監査法人トーマツ

■事業内容: キナーゼをターゲットとした創薬事業および創薬支援事業



神戸バイオメディカル創造センター(BMA)

前年同期より業績は大幅改善

- ✓ 売上高は、対前年同期比 51.3%増
- ✓ 営業損益は、売上高の増加、売上原価率の低減等により、前期より 153百万円の改善
- ✓ 経常損益は、営業損益の改善により、前期より 156百万円の改善
- ✓ 当期純損益は、経常損益の改善により、前期より 158百万円の改善

(百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2013年12月期第3四半期実績 (a)	560	△210	△191	△195
2012年12月期第3四半期実績 (b)	370	△364	△347	△354
対前年同期比 (c)=(a)-(b)	+190	+153	+156	+158
対前年同期増減率 (d)=(c)/(b)	+51.3%	—	—	—
2013年 計画値 (e)	1,155	4	28	23
対通期計画 進捗率 (%)	48.6%	—	—	—

(注1) 百万円未満は切り捨てて表示しております。

(注2) 当期通期計画値は、2013年2月8日発表の通期計画に基づいております。

(注3) 対通期計画に対する進捗率における、「営業利益」「経常利益」「当期純利益」の値はそれぞれ損失を計上しているため数値を表示しておりません。

第3四半期 事業別業績の概況



(百万円)

	売上高			営業利益		
	創薬支援事業	創薬事業	計	創薬支援事業	創薬事業	計
2013年12月期 第3四半期実績 (a)	560	—	560	196	△407	△210
2012年12月期 第3四半期実績 (b)	370	—	370	15	△379	△364
対前年同期比 (c)=(a)-(b)	+190	—	+190	+181	△28	+153
対前年同期増減率 (d)=(c)/(b)	+51.3%	—	+51.3%	1204.7%	—	—
2013年12月期 通期計画 (e)	755	400	1,155	187	△182	4
通期計画に対する 進捗率 (%)	74.3%	—	48.6%	104.9%	—	—

(注1) 百万円未満は切り捨てて表示しております。

(注2) 当期通期計画値は、2013年2月8日発表の通期計画に基づいております。

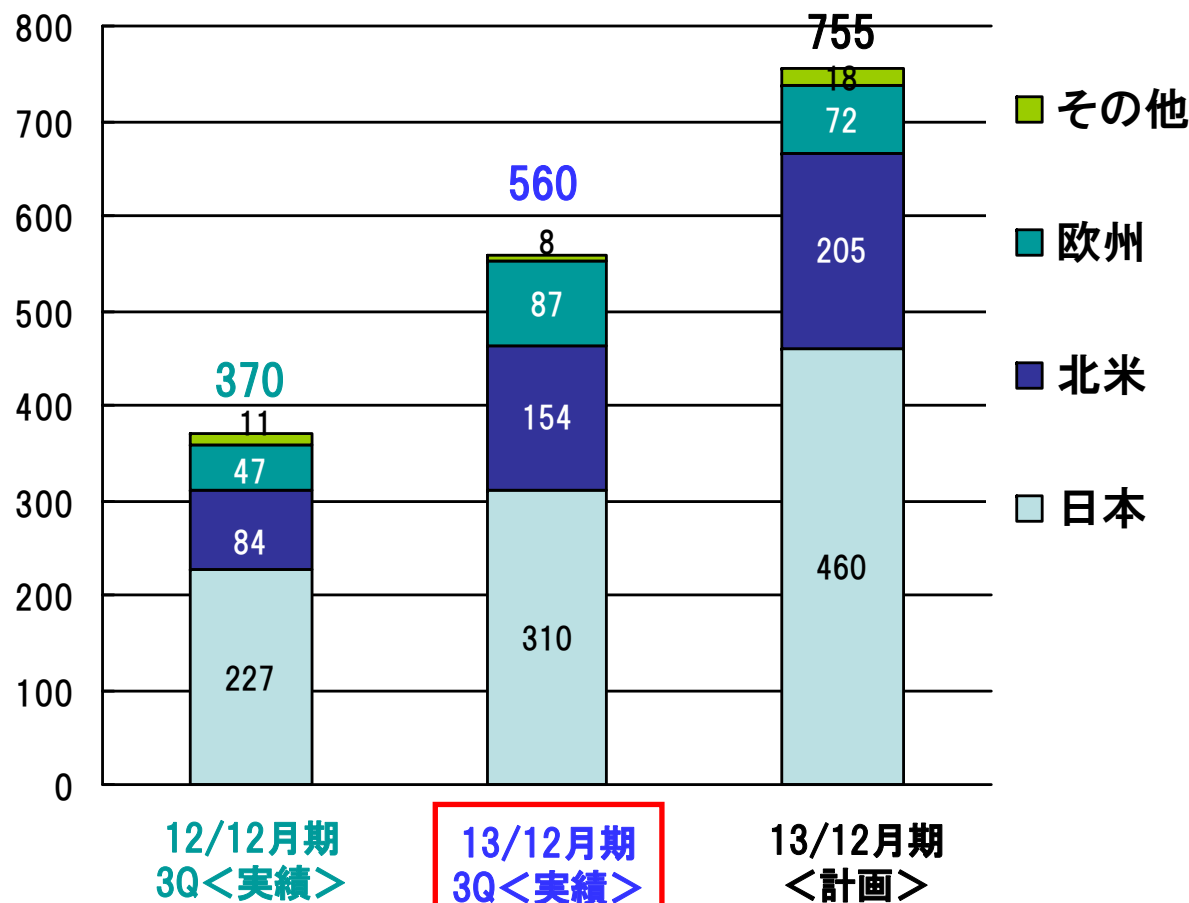
(注3) 対通期計画に対する進捗率における、「営業利益」の値は損失を計上している場合数値を表示しておりません。

第3四半期 地域別売上高(創薬支援事業)



地域別売上高(連結)

(百万円)



為替レート(US\$): 78.65円
 海外売上比率: 38.6%

96.84円
 44.7%

80.00円
 39.1%

創薬支援全体の売上は
 前年同期比 **51.3%増**

- ・**国内**は前年同期比 **36.3%増**
 ⇒プロファイリング・スクリーニングサービスの大幅増加
 (小野薬品工業からの大規模キナーゼスクリーニングサービスの提供は順調に推移)
 ⇒RPPAサービスの立ち上がり
- ・**北米**は前年同期比 **83.8%増**
 ⇒プロファイリング・スクリーニングサービス、セルベース・アッセイの大幅増加
 ⇒タンパク質販売も順調な売上増
 ⇒円安ドル高の影響
- ・**欧州**は前年同期比 **85.0%増**
 ⇒キナーゼタンパク質、アッセイ開発、セルベースアッセイで売上大幅増
- ・**その他**は前年同期比 **29.0%減**
 ⇒タンパク質販売の低迷

当第3四半期累計期間に当社グループと取引のあった顧客数

(単位:顧客数)

	国内顧客	北米顧客	欧州顧客	その他	合計
2013年12月期 第3四半期 (A)	62	73	48	12	195
2012年12月期 第3四半期 (B)	59	75	49	14	197
増減 (A)-(B)	+3	△2	△1	△2	△2
(参考) 2012年12月期通期	63	82	56	14	215

(注1) 各期において売上を計上した顧客数を表示しております。

(注2) 同一顧客に対して複数回売上が計上された場合も1顧客として計算しております。

研究開発費および設備投資について



(単位:百万円)

		2013年12月期 第3四半期累計	2012年12月期 第3四半期累計	2012年12月期 通期
研究開発費	創薬支援事業	3	2	2
	創薬事業	308	280	374
	計	312	282	376
設備投資		6	38	38
期末人員(連結)		54人	51人	52人

(内訳)

研究開発費:化合物の非臨床試験費用(化合物の最適化、高次評価及び前臨床費用並びに創薬基盤技術の強化)

設備投資 :本社電話設備更新、研究開発用の研究機器

バランスシートの状況(連結)



(単位:百万円)

	2013年12月期 第3四半期末	2012年12月末	増減額	増減理由
流動資産	1,415	913	502	
現金及び預金	1,148	654	493	
その他	266	258	8	棚卸資産+10、売掛金+4、前払費用△7等
固定資産	252	203	48	投資有価証券(クリスタル・ゲノミクス社)増等
資産合計	1,667	1,116	550	
流動負債	110	109	0	未払金△4、預り金△4、前受金+11等
固定負債	164	126	37	長期借入金+16、繰延税金負債+21等
負債合計	274	236	38	
純資産合計	1,393	880	512	資本金+331、資本剰余金+322、利益剰余金△195等
負債・純資産合計	1,667	1,116	550	

自己資本比率	83.0%
一株当たり純資産	17,447円
PBR(株価純資産倍率)	6.03倍
(参考)当社株価	104,500円

(注)当社株価は東証(旧大証) JASDAQグロースにおける各四半期末日における終値に基づいております。

- ▶ ガンを継続的に重点領域とする
- ▶ ライセンスアウト活動を通じて、研究への投下資金の回収を目指す

主な研究パイプラインの研究ステージ

2013年9月末現在

キナーゼ (対象疾患)	非臨床	臨床試験 (治験)	承認 申請	上市
TNIK (大腸ガン)				
CDC7/ASK (ガン)				
BTK (免疫炎症疾患、ガン) リウマチ				
DYRK1A (神経変性疾患) アルツハイマー病				

研究パートナー



当社独自研究テーマ



株式会社ProbeXの完全子会社化



平成25年10月1日付簡易株式交換によるProbeXの完全子会社化（平成25年9月4日公表）



京都大学との共同研究がJST事業に採択

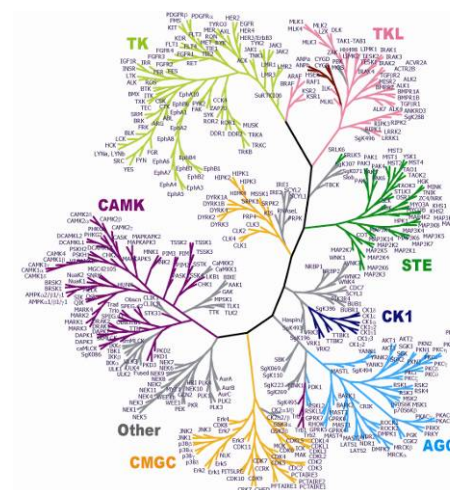


研究成果展開事業(先端計測分析技術・機器開発プログラム) 開発課題: 「キノームの活性プロファイル法と制御技術の開発」

(平成25年9月19日公表)

(目的)

タンパク質のリン酸化反応を担っている酵素であるキナーゼについて、
特定のものだけでなく、
キナーゼのリン酸化の状態を全体として包括的かつ系統的(キノーム)に認識し、
さまざまな疾患における細胞内のキナーゼの挙動を理解する



ヒトキノーム系統図

京都大学大学院薬学研究科(石濱泰教授)

- ・リン酸化ペプチド濃縮法であるヒドロキシ酸修飾酸化金属クロマトグラフィー法(HAMMOC法)
- ・高効率タンパク質抽出・消化法である相間移動溶解法(PTS法)



カルナバイオサイエンス株式会社

- ・高品質のキナーゼタンパク質(343種類)
- ・キナーゼプロファイリング技術

(取り組む技術開発)

- ・特異的かつ高感度な基質ペプチドの創出(約400種類)
- ・細胞レベルでのヒトキノーム活性プロファイリング技術の開発



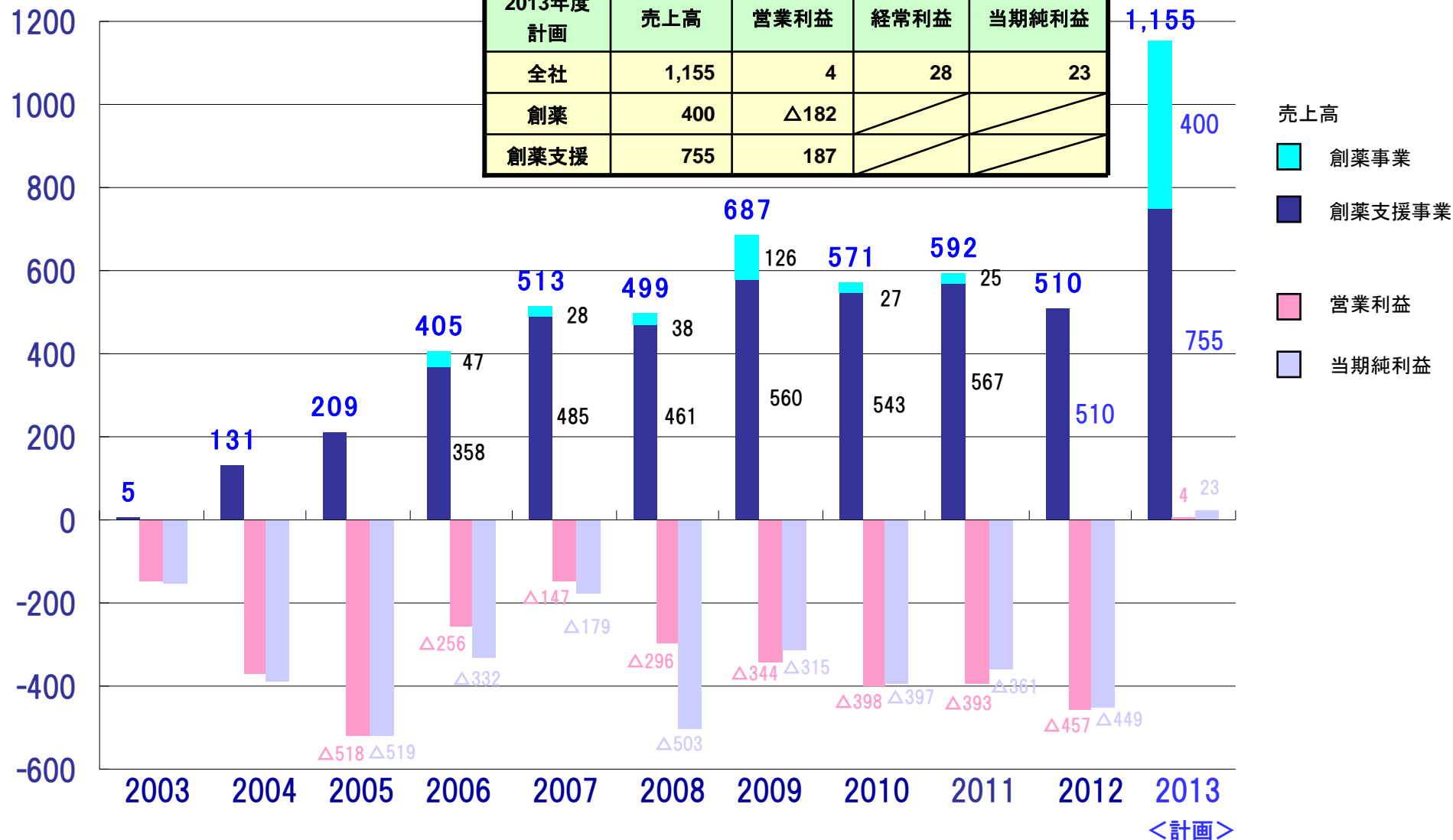
個別化治療につながる
コンパニオン診断への応用

売上高、利益計画(連結)

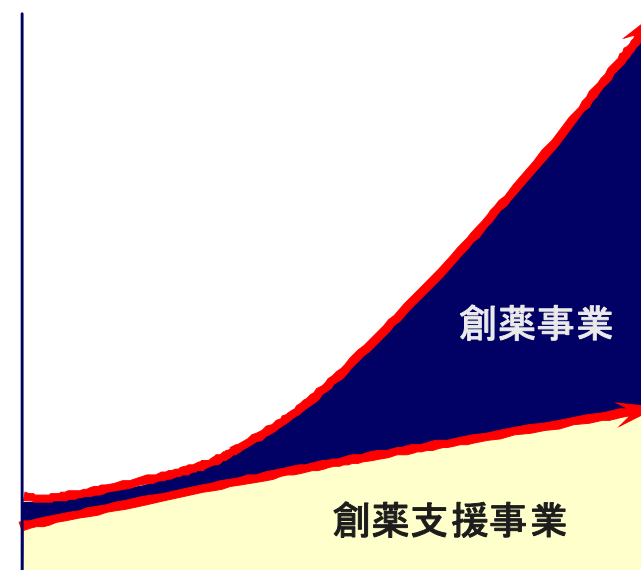


(百万円)

2013年度 計画	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
全社	1,155	4	28	23
創薬	400	△182		
創薬支援	755	187		



1. 当社の創薬事業は、従来の創薬ベンチャーとは異なり、膨大なコストと開発中止のリスクが高い第3相臨床試験(PIII)以降の段階は手掛けず、それ以前のいずれかの段階で大手製薬企業等に化合物を導出するビジネスモデルを想定しております。
2. 当社は創薬支援事業においては2006年12月期以降黒字化しております。今後も創薬支援事業での売上を伸ばすことで、2013年12月期には、会社全体として黒字化を目指します。
3. 当社は、ガンなどを対象疾患とするキナーゼ阻害薬の創薬研究をスピーディーに進めてまいりますが、一般的には、創薬の成果が実るには長い年月がかかることをご理解下さい。
4. 中長期的には成長トレンドにあるため、カルナバイオサイエンスの株式は、中長期的視野で保有していただきたく存じます。



今後とも一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



カルナ《CARNA》は、ローマ神話に登場する人間の健康を守る女神で、cardiac(心臓)の語源とも言われています。バイオサイエンス《BIOSCIENCES》は、生物学と言われ、生物学(Biology)と生命科学(Life Science)から、つくられた言葉です。「生命科学の世紀」とも言われる21世紀に向けて、カルナバイオサイエンス社とともに新しい女神“カルナ”が誕生しました

カルナバイオサイエンス株式会社

経営管理本部 経営企画部

〒650-0047

兵庫県神戸市中央区港島南町1-5-5 BMA3F

Tel (078)302-7075 Fax (078)302-6665

<http://www.carnabio.com/>

ir-team@carnabio.com

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用下さい。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的に利用される場合においても、ご自身の判断と責任において利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。